

# お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について<sup>1</sup>

伊藤さとみ・冯曰珍・曹泰和

## 1. はじめに

お茶の水女子大学では、平成24年度より、グローバル人材育成事業として、グローバルに活躍できる人材の育成に向けた事業を行っており、この事業の一環として、「英語・第3言語習得による多言語能力」の向上に取り組んでいる。そこで、中国語教育も、カリキュラム改革や中国語専任講師の採用などの制度・人員面の改革を行ったが、平成25年度からは、さらに教育の内容そのものを充実させる試みも始めた。具体的には、中国語圏言語文化コースの伊藤さとみ、外国語教育センターの冯曰珍、曹泰和の三人が中心となり、基礎中国語の授業向けのテキスト（以下、基礎中国語テキストと呼ぶ）の編集、及びウェブを使った復習用教材の開発を行っている。本稿では、これらの取り組みについて紹介する。

本稿の構成は以下のとおりである。第2節では、お茶の水女子大学の基礎中国語履修者の中国語習得度を中国語検定(HSK)の成績結果を通して概観する。第3節では、基礎中国語テキスト及びウェブを使った復習用教材の作成過程を紹介し、第4節では基礎中国語テキストの概要、第5節ではウェブを使った復習教材の概要について紹介する。最後に、第6節では、基礎中国語の授業内で行ったアンケートの結果を紹介し、それを踏まえて加えた改訂について述べる。

## 2. お茶の水女子大学基礎中国語履修者の特徴

お茶の水女子大学で提供する第3言語科目としては、中国語、フランス語、ドイツ語、朝鮮語、ロシア語がある（平成27年度からはアジア諸語、スペイン語、イタリア語も加わる）が、そのうち、1年次向け基礎中国語のクラスを履修する学生は、平成24年度で137名、平成25年度で102名、平成26年度で113名であり、小規模な大学としては少なくない人数である。基礎中国語の授業は、週2コマが1セットとなっており、

学期によって担当教員が変わることはあるが、基本的には同一の教員が担当している。なお、クラスは学部別になっており、理学部向け1つ、生活科学部向け1つ、文教育学部向け2つという構成である。さらに、もっと中国語を勉強したい学生のために、基礎中国語（応用）のクラスも開講されており、学生は週2～3コマの授業を受けていることになる。

このような体制の中で、中国語教育の充実を図るために、まず基礎中国語履修者の中国語習得度を客観的に知る必要があった。そこで、平成25年3月27日にお茶の水女子大学を会場として、基礎中国語履修学生を対象としてHSKを実施した。ただし、これは希望者のみの受験であるので、どちらかという中国語に自信のある学生が受験していた可能性が高いと思われる。そのせいか、成績もよく、受験者すべてが2級の合格点を獲得した。HSKの2級は、大学での1年間の中国語学習終了を目安としていることから、少なくとも受験した学生については、中国語教育は成功していると言える。ただし、点数を読解と聴解に分けてみると、問題点が見つかった。読解の平均点は92.9点と高い一方で、聴解の平均点は70.2点と、20点以上も低いのである。両者の点数分布（図1）をみても、聴解と読解に大きな開きがあることが見て取れる。特に、聴解において、60点に満たない受験者もいたことは、改善の必要があると思われた。そこで、中国語教育を充実させる方針として、聴解能力の向上を目標に置き、新しい基礎中国語テキストの編集を始めることになった。

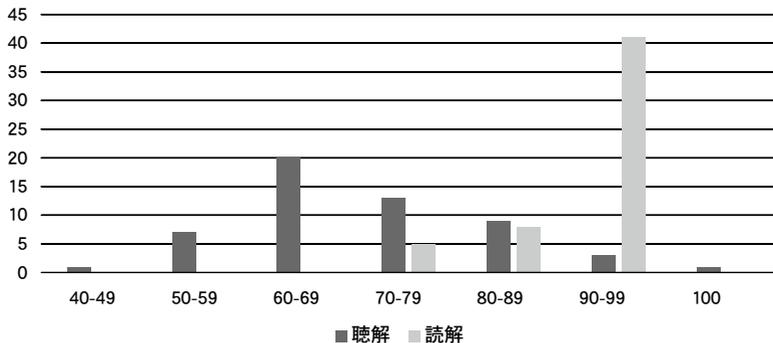


図1 難解と読解の点数分布比較

### 3. 編集の歩み

## お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について

基礎中国語のテキストの編集には、中国語圏言語文化コースの伊藤さとみ、外国語教育センターの冯日珍、曹泰和に加え、「中国語科教育法Ⅰ／Ⅱ」「中国語教育実践方法論（基礎／応用）」という中国語科教員免許に関わる二つの授業を受講した学生も参加している。

テキストを作るうえでの方針としては、以下のような取り決めをしていた。

- 1) 教師から見て、教えやすく、学生から見て、面白く、学びやすく、かつ、HSK2級に合格できる内容であること。
- 2) 語彙は、HSK 2級以上とし、2級相当のものを\*をつけて重要単語とする。
- 3) テキストの構成は、「発音編＋本文編＋索引」とする。
- 4) 課文の内容は、日本、お茶大を舞台にし、適宜、旅行や留学を取り入れる。
- 5) 各課は、会話文と短い文章、続いて新出単語、文法説明、最後に総合練習という構成にする。文法の説明の中にも、授業内で使いやすい練習問題を置く。
- 6) 文法項目は、HSK 2級を基準に選定し、各課にまんべんなく散らばるようにする。説明はシンプルにし、動補構造などは、フレーズとして紹介する。
- 7) 練習問題には、和文中訳を入れない。
- 8) 索引は、中国語と日本語の索引を両方つけ、日中辞典を兼ねる。

ただ、これらの中には、実現できなかったものや変更したものもある。(2)の重要単語を選定する点や(8)の日本語の索引は、まだ実現していない。(2)については、今後は非実現したいと考えているが、(8)については、現在、インターネット上で簡単なものなら日中辞典がアクセスできることを考えると、必要性はあまりないとも考えられる。また、(7)の練習問題については、課文が一通り完成してから、平成25年度後期の途中に改めて方針確認をした。

編集に当たっては、まずドラフトを作り、それを授業内で検討する形で進めた。発音編、各課の文法事項の決定及び文法説明については、伊藤さとみがドラフトを作り、各課の会話と短い文章については、参加学生（王芸嬭さん、鄒越凌さん、鄧翔心さん）がドラフトを作った。予め入れるべき文法事項があり、かつ、未修の文法事項は入れないという制約の中で、自然な会話と文章を作るのは、かなり難しかったが、各学生は場面を工夫しながら作ってくださった。だが、ドラフト段階では文法事項が多くなってしまったり、会話の流れが不自然であったりすることが多かった。そのた

め、ドラフトをもとに、伊藤さとみ、冯曰珍、曹泰和の三人を中心に、参加学生との討論も踏まえ、授業内で改変を加え、制約内ですできるだけ自然な会話と文章を目指した。また、文法の説明やその例文についても、同じく授業内で議論しながら決定した。

一通り課文ができた時点で、練習問題の作成に取り掛かった。練習問題の作成は、以下の方針に沿って行った。

- a) 各文法事項の説明の直後、または関連のある文法事項2～3個ごとに、授業内で使えるような、ごく簡単な会話練習を一つ置く。内容は、文法事項に慣れることと、語彙を増やすことを目的とする。
- b) 各課の最後に、総合練習を置く。総合練習は、リスニング問題、本文の内容についての問いに答える問題、文法問題、絵を見て作文する問題からなり、できるだけたくさん書いて慣れるのを目的とする。

練習問題についても、参加学生がドラフトを作り、それを授業内で検討する形で作成した。

最後に、ピンインをつける作業は、伊藤の研究補助者を務めてくださっていた鄭文棋さんをお願いした。最終的内容の調整、レイアウトの決定、索引の作成は、本稿の著者三人が行った。出来上がったものは、平成26年4月より、(上)と(下)の二冊からなる試用本として、基礎中国語の各クラスで実際に使用した。使用する中で気がついた誤植や問題点は、その都度訂正してきたが、さらに内容の調整を施した上で、平成27年度4月から、一冊の基礎中国語テキストとして各クラスで使用する予定である。

平成26年度後期からは、基礎中国語テキストに対応する、ウェブ上で利用できる復習問題を作る試みも始めた。こちら、「中国語科教育法Ⅰ／Ⅱ」「中国語教育実践方法論(基礎／応用)」の授業を受講した学生がドラフトを作ったが、前年度とメンバーが一部異なり、林如さん、鄧翔心さん、鈴木涼子さん、王露さんが作ってくださった。こちら、各課の文法のポイントを中心に、未修の文法事項や語彙は使わないという制限の下で、できるだけいろいろな形式のものを考えていただいた。できたもののうち、すでにある教科書の音声を利用できるもの(21題)は、ウェブにアップロードし、平成26年度冬休みの宿題として受講生に課した。その結果、40名前後の学生の回答を得た。

#### 4. テキストの特徴

## お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について

基礎中国語テキストは、発音編と本文編、それに索引という基本的構成はこれまでの大学向け初級中国語テキストの構成と同じである。これまでのテキストと異なる特徴としては、以下があげられる。

- 1) 発音編：発音の仕方についての詳しい説明があり、また、発音練習用の単語も6～8個と多い。
- 2) 文法：文法事項は、HSK 2級の文法事項を、各課に割り振って作っている。そのため、他の大学向け初級中国語テキストに比べると、文法事項の量としては少ない。だが、重要な文法事項には会話練習をつけ、文法事項の定着を図った。例えば、第4課「場所を聞く表現」の文法的説明は、以下のようになっている。

### 3. 場所を聞く表現

你 去 哪儿？

Nǐ qù nǎr?

他们 去 哪里？

Tāmen qù nǎlǐ?

“哪儿”は場所を訪ねる疑問詞である。“哪里 nǎlǐ”とも言う。



次の文の下線部を以下の単語から選び、周りの人と会話しましょう。

你 去 哪儿？ 我 去 \_\_\_\_\_。

Nǐ qù nǎr? Wǒ qù \_\_\_\_\_.

食堂 学校 图书馆 教室 洗手间 超市

shítáng xuéxiào túshūguǎn jiàoshì xǐshǒujiān chāoshì

医院 车站 机场 办公室 公司 公园

yīyuàn chēzhàn jīchǎng bàngōngshì gōngsī gōngyuán

図2 文法説明の抜粋

図2のように、文法の説明は、始めに2～3個の例文を挙げ、その下に簡単な説明を加えた。さらに、授業内で会話練習にすぐ入れるように、会話例を挙げ、入れ替え練習に使う単語を表示した。この部分は、たまたまパンダのイラストを使ったので、授業内ではパンダ練習と呼んでいる。

- 3) 語彙：パンダ練習のほとんどは、上記のように、入れ替え練習であり、補充単語がその都度つけられている。そのため、他の大学向け初級中国語テキストに比べると、単語の数が多くなった。一般のテキストでは500語～600語程度であるが、この基礎中国語テキストは800語あまりある。
- 4) 総合練習には、1. 聴解問題（全文書き取り）、2. 聴解問題（空欄補充）、3. 本文の内容について中国語で答える問題、4. 文法問題、5. 絵を見て作文する問題の5題からなる。また、本文の内容について中国語で答える問題も、第8課からは、音声で与えられる質問に対し、答える形式に変えている。このように、聴解に関する問題の比重が大きいのが特徴である。また、絵を見て作文する問題は、HSKの問題からヒントを得たものだが、自由作文に近い問題である点が特徴である。以下に第7課の総合練習から絵を見て作文する問題の例を挙げる。

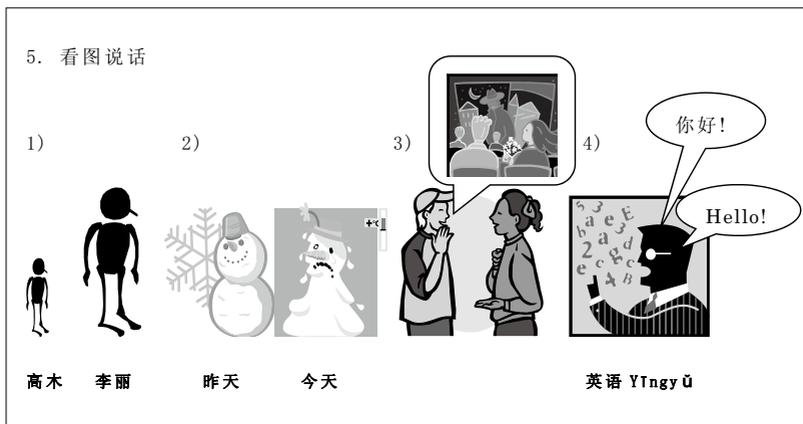


図3 絵を見て作文する問題の抜粋

- 5) 各課には、《更上一层楼》というコーナーを設け、授業で取り上げるには煩雑すぎる文法事項の説明や、中国の文化や語彙に関する話題を取り上げた読み物をつけた。

## お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について

以上、5つが基礎中国語テキストの主な特徴である。このうちのいくつかは、平成26年度末に行った授業アンケートの結果を受け、変えたところもある。変更については、第6節で述べる。

### 5. Ploneを使った e-Learning の試み

外国語の初級テキストには、必ず音声が必要である。基礎中国語テキストでは、発音編、会話、文章、総合練習の聞き取り問題の中国語を、冯日珍と曹泰和がICレコーダーで吹き込み、それをAudacityというソフトを使って雑音を減らす処理をした後、ウェブにアップロードした。履修学生は、指示されたサイトから自分で音声ファイルをダウンロードし、聞くことができる。

アップロードするサイトには、Ploneを使った。お茶の水女子大学には、学習支援サイトとして、PloneとMoodleを導入しており、外国語教育センターで推進しているのは、むしろMoodleの方である。それをあえてPloneを使った理由としては、サイト構成の可動性が高く、授業のニーズに合わせた作り変えが行いやすい点が挙げられる。基礎中国語の授業用の音声のアップロードのほか、以下のような復習問題をアップロードし、課外学習の手助けになることを目指した。

下は、Ploneの基礎中国語サイトから復習問題の一つを開いた画面である。



図4 Ploneの基礎中国語サイトから

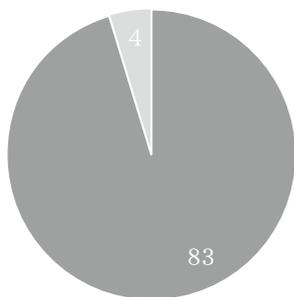
基礎中国語履修者は、オーディオのアイコンをクリックして音声を聞き、答えとしてふさわしいものを選んで、ラジオボタンをクリックし、送信する。現在は一部の問題しか対応していないが、送信後に正答を示したHPに移り、もう一度音声をクリックして確かめることもできるようにするつもりである。このような問題を課外学習として提供し、中国語の音声を繰り返し聞かせることにより、聴解力の向上を目指した。なお、学生が送信した結果は、教員側でResultsのボタンから確かめることができ、正答率なども見ることができる。設定した問題には、上記のような会話問題、中国語の単語を聞いて正しい訳を選ぶ問題、文章を聞いてその内容に合っている文を選ぶ問題など、選択問題に限定している。記述問題は、パソコンでの中国語の入力方法の習得が先に必要になることもあり、初級では必要ないと考え、作ってはいない。

## 6. 学生の反応と改訂～授業アンケートから

最後に、これらの取り組み対し、受講学生からの反応とこれからの改善案を紹介する。授業最後の週にテキストに関するアンケートを行い、87名の回答を得た。そのうち80名までが大学に入学して初めて中国語を学んだ学生である。

### 6.1 発音編について

まず、発音編について尋ねた。図5に示したように、発音の復習には、Ploneの音声を83名が利用している。利用しなかった4名の回答者のうち、「使い方が分からな



■ 利用した ■ 利用しなかった

図5 発音の復習にPloneの音声を利用しましたか。

かった」と回答した学生は1名のみであった。そこで、CDではなくウェブ上に音声を置く方法でも、特に問題はないとみなしてよいだろう。なお、Ploneの音声を利用しなかった学生のうち、2名は「必要性を感じなかった」と回答しているが、中国語学習経験のある学生の可能性もある。一方、平成26年度の基礎中国語テキストには、詳しい発音の説明を載せていたが、「ほとんど見なかった」と答えた学生が14名もいた。発音の説明については、教員によってその説明の妥当性が問題になることもあり、

## お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について

Ploneで聞きながら練習ができるのならば、削除してもよいと判断し、平成27年度のテキストでは説明の部分の削ることとした。また、子音の発音練習に、2音節単語を8題挙げていたが、初めて中国語の発音を練習するには難しいという意見が教員・学生双方からあったため、平成27年度版の試行本では、1音節単語と2音節単語を半々くらいになるように調整し、単語数も5個前後に絞った。

Ploneの音声については、パソコンでの再生になるため、聞き取りにくいのではないかと危惧していたが、「はっきり聞こえた」が46名、「聞きにくかった」が10名で、心配したほどは問題にならなかったようである。また、この問いは複数回答可だが、「読むスピードが遅い」が21名、「読むスピードが速い」が5名と感じ方は人によって異なっている（図6）。

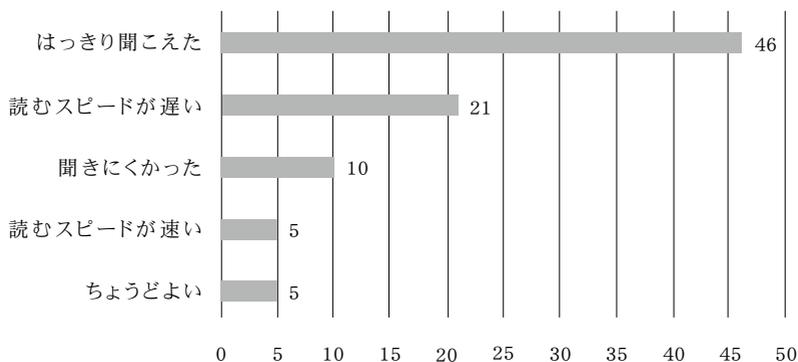


図6 発音はまねしやすかったですか。

### 6.2 会話文について

会話文については、内容を「面白い」と回答した学生が31名で、それほど評価されなかったが、限られた文法事項で外国語の会話を作る限界とも言える。会話文の難易度と量については、8割以上の学生が「ちょうどよい」と解答しており、特に問題はないようである（図7）。

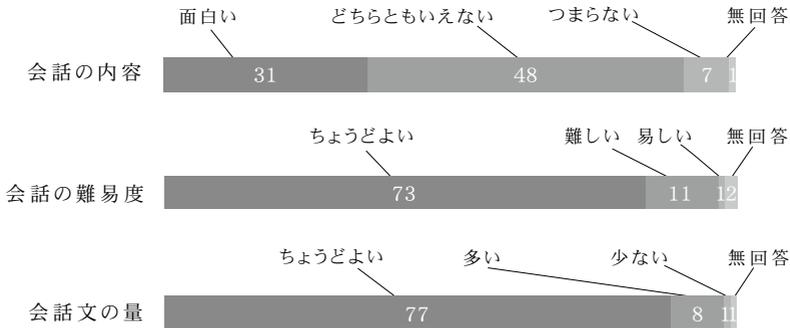


図7 会話文について

### 6.3 単語について

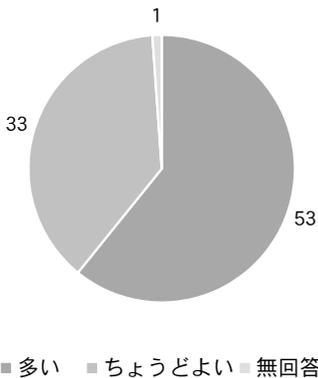


図8 単語の量

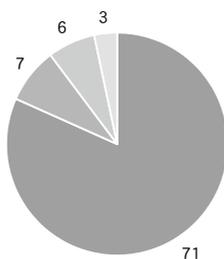
単語の量に関しては、約6割の学生が多いと答えている。自由記述で指摘されたことだが、単純に単語量が多いだけでなく、課によって補充単語の量にばらつきがあり、やりにくいと感じた学生もいたようである。単語量の絞り込みと、補充単語の導入の仕方については、さらに工夫が必要である。

### 6.4 練習問題について

先に述べたように、基礎中国語テキストでは、文法の説明のすぐあとにそれに関連する入れ替え練習（バンダ練習）を置いている。この練習問題に関しては、「役に立った」と答えた学生が8割を超えており（図9）、改訂版でも引き続き載せていく。

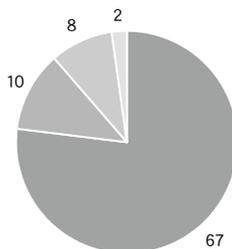
総合練習の分量に関しては、「ちょうどよい」が8割近くおり（図10）、この分量でよいと思われる。ただし、自由記述で指摘されたことだが、絵を見て作文する問題の絵が分かりにくい、何を作文するよう要求されているのか分からない、ということが

## お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について



■役に立った ■負担になった ■もっとあったほうがよい ■無回答

図9 パンダ練習について



■ちょうどよい ■多い ■もっとあったほうがよい ■無回答

図10 総合練習の分量について

よくあったようである。そこで、改訂したバージョンでは、キーワードをつけて作文の方向性が明確になるようにした。また、和文中訳は、日本語と中国語の対応の固定化につながり、初級の段階では学習を阻害することがあるため、あえて作らなかったが、作ってほしいと答えた学生が45名、つまり半数近くいた。中級への橋渡しとして、一部導入することも検討している。

### 6.5 その他

自由記述では、中国語に日本語の訳をつけてほしいという要望が多かった。この点については、授業でも何度か検討したが、会話や文章に日本語訳をつけるのは、文体の問題があり、難しいと考えている。例えば、中国語の直訳としての日本語にするに

しても、意識としての自然な日本語にするにしても、一長一短があり、却って学習者の誤解を招く恐れもある。ただ、文法項目の例文または一部の訳が分かりにくいものについてのみ、日本語訳を載せることは検討している。

## 7. まとめ

以上、基礎中国語用のテキストの編集及び対応するウェブ教材の開発の過程、それらの特徴、また、学生の反応について述べてきた。まだ改善すべき点は多いため、大学における中国語初級教育の一つの試みとして、今後も継続していく予定である。

(いとうさとみ・ふうえつちん・そうたいわ)

---

<sup>1</sup>本稿の内容は、2015年2月13日にお茶の水女子大学で開催された外国語教員FD研修での発表をもとにしている。会場および全体討論の場でコメントをくださった方に心から感謝いたします。